

安倍首相の米国議会演説に事寄せて

■首相演説や談話の内容に干渉？

4月29日に安倍首相の米国議会演説が有りました。また、今年8月の終戦記念日に戦後70年の談話が発表される予定です。この演説、談話については、中国、韓国の政府やマスコミが「先の戦争に対する遺憾の表明と謝罪」を盛り込むように求めてきておりました。

米国議会での演説は米国の国会議員、国民に向けた日本国首相としての未来志向の同盟構築を訴えるものでした。他の国が意見をさしはさむ余地は少ないと思われれます。近隣諸国との関係に深く触れざるを得ない戦後70年談話発信の日が近づくにつれ、中国、韓国からの意見は大きくなっていくのでしょうか。なんとも鬱陶しい、奇妙な話です。講和条約を締結したら、過去の問題は一旦清算されて、友好関係に入るとというのが国際法の世界です。講和条約が未締結のロシアを除けば、過去は清算済みです。

他国を誹謗、中傷するものでなければ独立した一国の首相の演説や談話など、自由に発表させていただきたいものです。靖国神社への参拝にしても、あれは、宗教行為ですから、他の国は口をはさんではならないのです。未だに宗教が国際紛争の種にはなっていますが、「最後の宗教戦争」である三十年戦争後に締結されたウェストファリア条約以降、他国の宗教について介入しないのが国際政治の原則になっています。

■歴史教育とイノベーション

勝てば官軍式の歴史解釈、押し付けの横行を断じて許してはなりません。

グローバル化した今日、各国に間違いのない資料が残されている100年、200年の資料(文書、録音テープ、録画等)、事実に基づいた世界統一の事実集があるべきだと考えています。その事実をベースに各国が独自の解釈を加えた歴史物語を作り、教育すべきです。そうすれば、南京事件も、慰安婦問題も解決が容易になる(雲散霧消する)と考えています。東京裁判にしても、戦勝国による一方的な制裁であったことが明らかになります。

事実は事実として受け入れた上で、「二度と過ちは繰り返しません。繰り返させません」と世界が誓い合う、そのような歴史教育が世界で必要とされていると思います。

思えば小学校、中学校、高校と歯切れの悪い歴史教育を受けてきました。実社会に出て必要な近代・現代の歴史教育は特に歯切れが悪いものでした。教科書も記述が少なく、近代・現代は避けているように思えました。高校では大学受験に出題される確率が少ないからとすつ飛ばされた感もありました。これではグローバル人材は育ちません。外国の方々と話もできません。モノづくりに長けてはいるが、宗教もなく、世界の歴史も知らない教養のない、野蛮な日本人と言われるのが落ちです。

日本のイノベーションは、日本民族が自信を取り戻すことから始まると信じています。イノベーションは人類の未来に貢献するという前向きな姿勢から生まれるものです。

金儲けや名声は結果としてついてくるものです。

我が国は、敗戦が予想されたにもかかわらず、戦争に踏み切らざるを得ず、戦争には負けはしましたが、結果としては、旧植民地、有色人種の国々が多数独立することに繋がりました。戦後は、安倍首相が米国議会で語ったように戦争を行ったことを深く反省し、そのことで迷惑をおかけした近隣の国々の民主化と近代化に協力してきました。

過ちは過ちとして認め、そこから日本人として、世界人類への貢献を目指すためには、正しい歴史教育が必要です。イノベーション創出には、日本人としての自覚を持ち、自由で平等、かつ豊かな世界を切り拓くんだという前向きの気概が必要です。そのための歴史教育です。

植民地支配を行い宗主国と言われた他の国々も、近代・現代の歴史教育の見直しを行ってほしいものです。

「二度と過ちは繰り返しません。繰り返させません」